



たが つか
「互いに仕える」

かいりじちょう おおさわ せいいち
ちいろば会理事長 大澤 星一

にしや まときょうかい ふた 西大和教会には二つの『ミッションステートメント』と呼ばれる宣言・信仰告白があります。一つは 2000 年の 4 月の教会総会で制定された『宣教宣言 2000』であり、もう一つは 2017 年の総会で制定された『西大和教会 60 周年 宣教宣言』というものです。2017 年に制定されたものは 2013 年から話し合いを重ねて作られたもので、西大和教会は何を信じ、どう歩み、どうそれをこの世に示していくのかということが、その時の時代や社会を背景にして考えられました。

さいしよ ねん 最初は、2000 年のミッションステートメントを書き換える、というところから始まりました。しかし、2000 年に作られたものは、その時の時代背景や社会状況に迫られて作られたものだから、これはこれで完成し、大事にされるべきだとし、その後イラク戦争や東日本大震災を経験した私たちが何をこの世に、この地に示すかを新たな言葉で語るべきだと、新たに一から作られたのでした。

これは、キリスト教の歴史をみれば、いろいろな時代で信仰告白が作られたのと同じ理解です。

どちらの『ミッションステートメント』にも正義と平和を祈り求め・行動すること、子どもたちや障がいのある人々と共に歩むことが盛り込まれています。

にしや まときょうかい ぜんぼくし こた かみとしおぼくし あい そのようちえん えん きょうつう せいしん たしや 西大和教会の前牧師であった故高見敏雄牧師は愛の園幼稚園とちいろば園に共通する精神は、「他者に仕える」ということだとおっしゃっていました。

どちらか一方が、どちらか一方に仕えるという関係であれば、それは支配・被支配という関係になっていく危険もあります。しかし、どちらもお互いに仕えるという関係であれば、それは、お互い仕え合う関係であり、そこには平和があります。

ちいろばも、愛の園も、教会も、そこに関わるすべての人がこの他者に仕える(=仕え合う)という精神を大切にしななければならないと思います。

がつ にち にち ことし がつ な こた かみとしおぼくし きねんれいはい じ ふん にしや まときょうかい おこな 9 月 25 日(日)に、今年 2 月に亡くなった故高見敏雄牧師の記念礼拝を 10 時 15 分から西大和教会で行います。西大和教会に 2006 年まで 44 年間牧師として奉仕し、その間、愛の園やちいろば園が作られたことに大きな導きとなったことを覚えて、感謝の時にもなれと思います。また感謝だけでなく、私たちがこれからどのように歩むべきかを改めて確認する場にもなれと思います。どうぞ覚えてお祈り下さい。

おや な あと おや
=親亡き後を親あるうちに=

ちいろば園主任 奥田陽子

今年、ちいろば園利用者みなさんの平均年齢は、39.8歳になりました。

体力低下や疾病の増加など、ご本人たちの加齢に伴う変化も然る事乍ら、親御さんの加齢に伴う変化も顕著になってきたように感じます。「今日は病院予約しているから迎えに来ました。」「え？お父さん、病院は今日じゃなくて来週ですよ。」「こけて骨折してしまったから、今日からしばらく入院することになったんです。」最近では親御さんとのこんな会話も珍しくありません。また、親御さんの逝去も昨夏、今夏と続けました。「親亡き後に備えて…」と先の話ではなくなってきた今、私たち支援者の支援のあり方にはどのような変化が必要なののでしょうか。

約4年前からアパートで一人暮らしをしているMさんは、一部の通院や買い物はヘルパーさんと行くようにしていますが、実家のお父様に好みの食べ物を届けてもらったり、少しでも体の不調があれば帰省してお父様に車で病院に同行してもらったりと、助けてもらう部分が多くありました。ところがつい先日、ご高齢のお父様が車の運転をやめられたため途端にこれまでの支援を受けることができなくなっていました。

Mさんはその変化に不便さや不安を抱え、「悩んでいます。」と硬い表情で過ごしています。お父様が届けてくれていた物をMさんが買う方法など、変化に応じた対応策を提案していますが、「誰かがお父さんの代わりをしてくれたらいいのに…」と思っている様子で、「むずかしいです！」とMさんは言います。お父様が加齢により運転を継続できなくなることは、以前から容易に想像できていたことでした。しかし、そこに私たち支援者が適切な介入をしてこなかったため、今Mさんを悩ませてしまっているように思います。Mさんが一人暮らしに移行する時点において、一歩先を見据えた暮らしのあり方をMさんともお父様とも十分話し合っておくべきだったことを反省しています。

今月予定している一泊旅行の話題が出始めた頃、昨年お母様を亡くされたSさんは、「旅行のかばん(荷物)はいつも、お母さんが用意してくれてたの。お母さんが亡くなったからできないの。」と心配していました。Mさん同様Sさんも、旅行の準備はどうするの？！誰がお母さんの代わりにしてくれるの？！と・・・。

私たちは「当事者主体」と言いながらも、結局は親御さんが元気なうちはその頑張りに甘え、本人よりも支援者が親御さんの介入に過度に依存してきたことが明らかになってきました。「親亡き後に備えて…」というならば、例えば旅行時の持ち物をピクトグラム等でリストアップした資料を作成するなど、本人らが主体的に準備する方法を、親御さんが元気なうちから毎年の旅行の度に提案することはできたはずです。親亡き後や、親御さんがこれまでの機能を果たしにくくなった時、親御さんが行ってきた支援を引き継ぐことは大切ですが、単なる「親の代行」ではなく「当事者主体」の大原則のもと、本人の長期的な暮らしを支えるにはどのような支援が必要なのかを、できるだけ早いうちから本人とも親御さんとも話し合っておく必要があると思います。

「障害をもつこと」

せいかつしえんいん しんぐうゆうじ
生活支援員 新宮由士

「障害は不自由であるが、不幸ではない。障害者を不幸にしているのは社会である」

ヘレン・ケラーの有名な言葉です。

有名といったものの、私自身無知で、富田施設長から教わるまで、恥ずかしながら知りませんでした。ただ、その言葉を聞いたとき、とても深い言葉だということを感じました。私自身の経験やこの仕事を通じて感じたことを今回は書かせていただきます。

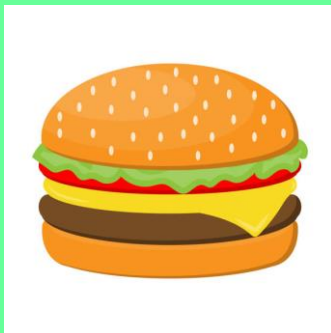
私は、生まれつき内部障害がある身体障害者です。幼い時から入退院を繰り返していました。成長期には、食事制限をすることになり、低たんぱくご飯、パンなど味気ない物しか食べられませんでした。高校生になり、周りの友人が放課後にマクドナルドやファミレスに行くのがとても羨ましかったことを覚えています。食べ物のエネルギー表と日々格闘しながら、必死でおいしいご飯を作っている家族には、友達とご飯を食べたいなんてとてもじゃないですが言えませんでした。

18歳の時、移植手術を受けました。退院の日、その足で向かったのがマクドナルドでした。その時に食べたハンバーガーは涙がでるほど美味しかったことを今でも覚えています。病気が原因でつらい思い出もありますが、病気があったから経験できたこともたくさんありました。運動を控えるため、徒歩からバス通学を余儀なくされた時、何人もの友達が一緒にバス通学してくれるようになったこと、お見舞いに来てくれたこと、前述したような家族の支えなど、私にとってかけがえのない宝物になりました。

障害をもつことは、不幸なことでしょうか？障害者はかわいそうで同情される存在でしょうか？決してそうではないと私は思います。身近に自分のことを理解してくれる人がいる、それが家族であり、友人、職場の仲間かもしれません。そのような存在がいるだけでも、その人は決して不幸な人ではないと思います。ただ、障害をもつ人が地域で生活するためには、

まだまだ制度や社会の理解が追いついておらず、障害をもつ人が生きづらい現状があります。

その生きづらさが障害をもつことが不自由、不幸につながっているのだと感じます。障害の有無にかかわらず、誰もが互いに人格や個性を尊重し支え合える共生社会を目指して、私自身も障害をもつ人の支えの一部になれたらと思います。



なつ たの
～夏のお楽しみ～

いそみち かおり
磯道 香織

ちいろば園には、夏の恒例のお楽しみイベントのブルーベリーの収穫と流しそうめんがあります。

午前にはブルーベリーの収穫をし、午後に流しそうめんを食べる 1 日を楽しむ日です。

ご存じの方も多いと思いますが、ちいろば園は現在の場所に移設して以来、約 160 株のブルーベリーの木を所有しております。園芸グループの利用者さんが大切に育て、食品製菓グループの利用者さんがそれをクッキーやパウンドケーキ、ジャムなどの商品にし、お客様にお届けしています。

そんなブルーベリーの実をちいろば園の利用者さんと職員全員で収穫しつつ、味見もしながら楽しめます。今年もブルーベリー畑には、「あーい!」「おいしい!」と夏の青空の下、汗を流しながらにぎやかな声が響いていました。そして、体を動かした後は、全員で準備をして流しそうめんが始まります。「利用者主体の事業所」を目指している私たちですので、イベントの準備ももちろん、利用者さんが中心となって行えるような工夫を行います。

まず事前に、「合同終礼」という場で、当事者活動の「みんなの会」の役員さんより、いつ、どこで、何が行われるのか、また各グループの役割分担などをモニターを使用して説明してもらいました。以前は、何かイベントやお知らせなどがあると職員から利用者さんに伝えるのが当たり前でした。そうです。いろいろな情報は職員だけが知ってて当たり前だったんです。でも今では、「今年は流しそうめんあるのかな」「みんなの会の人に聞いてみよう!」と利用者さん同士で楽しそうに会話する姿がいろいろなところで見られます。

イベント当日、そうめんをゆでるのも、ポテトをあげるのも、ねぎを切るのも全部利用者さんが行います。「お客様」で参加するのではなく、主体となってイベントを動かしていきます。通常とは違う動きになるわけですから、利用者さんには不安が生まれます。その不安をなくすために視覚情報などを用いた支援ツール（ポスター・カードなど）を作成し、見通しのつく環境づくりを行います。そうすることによって、はじめてイベントを楽しむことができるのです。ただ、そこには私たち支援者の課題が浮き彫りになることがあります。「伝えつつも」「伝わったつもり」などの思い込みや、抱えてる不安が違うものなのに、同じ支援ツールを用いて支援していたり。

ちいろば園には本来たくさんのイベントがあります。そのイベントを利用者さん全員が「楽しむ」ことができるように、私たち職員は支援力を向上させていかなくてはなりません。



きょうどうせいかつ おく ため
共同生活を送る為のルールについて

グループホーム職員 窪 美代子



グループホームでは、入居者一人ひとりが地域の生活を希望して地域
で当たり前暮らししているところです。それぞれが自分の部屋代、食事代、
水道光熱費、消耗品を払って生活しています。決められた日課や訓練、
集団生活を行うところではありません。
入居者一人ひとりのペースで暮らすところです。



共同生活者としてみんなが守るべきルールは存在します。しかしそれは、生活をしていくため
のもので、本来的には利用者を管理する目的ではあってはなりません。あくまでも社会における
ルールのようなものだけであるべきだと思います。

入居者の部屋に入る時にノックをする、入っても良いか聞く、部屋が散らばっているからと
本人のいない時に勝手に掃除をしないことは、入居者それぞれの生活スタイルやプライバシー
尊重するためのルールです。

「自身の部屋に入らないでほしい」と思っている方も
おられるので「入らないでほしい」の文字とピクトグラム
を用いて視覚的に分かりやすいものを作成し、全員にドア
にこれが貼ってある時には、部屋に入らないで欲しいと
理解してもらえるように説明しました。

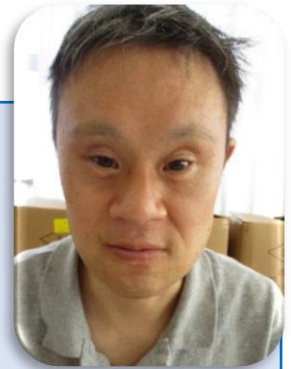


ルールを決めれば決めるほどグループホームはまとまるかもしれません。でもグループホー
ムは集団生活をする目的ではありません。家の中のルールは、世間よりもひとまわりもふたま
わりもゆるいもの、グループホームの本領は、一人ひとりに合わせた支援。入居者皆でルール
を決めたから、多数決で話し合っというのも大切です。

でも他人に合わせるために、何でもルールを決める前に一人ひとりの声を聞いてもう一度考
えてみて、そのルールは、入居者、誰かを窮屈に、思いや願いに蓋をしていないか考えるこ
とも大切だと思いました。

— ぼくも わたしも みんなが主役^{しゅやく} —

- 質問① 名前^{なまえ}と年齢^{ねんれい}は？
 質問② 家族^{かぞく}にまつわるエピソードは？
 質問③ 学校^{がっこう}、就労^{しゅうろう}時代のエピソードは？
 質問④ 最近^{さいきん}気^きになっていること、興味^{きょうみ}があることは？



- ① 木下^{きのした}洋伸^{ひろのぶ}、44歳^{さい}です。
 ② 普段^{ふだん}はグループホーム日之出^{ひので}荘^{そう}で暮^くらしています。
 実家^{じっか}に帰^{かえ}ると、お父^{とう}さんとお母^{かあ}さんがいます。
 お母^{かあ}さんと電車^{でんしゃ}に乗^のって奈良^{なら}や大阪^{おおさか}に行くのがうれしいです。
 帰省^{きせい}した時^{とき}、家族^{かぞく}で大阪^{おおさか}のおばあちゃんのお墓^{はかまい}参^{まい}りに行くのがたのしみです。
 ③ 斑鳩^{いかるがみ}南中^{なみちゅう}学校^{がっこう}、二階^{にかい}堂^{どう}養護^{ようご}学校^{がっこう}に通^{かよ}っていました。中^{ちゅう}学^{がく}、高^{こう}校^{こう}の修学^{しゅうがく}旅行^{りょこう}では
 どちら^{ねつ}も熱^でが出^でてしんどかったです。
 ④ 軽作^{けいさく}業^{ぎょう}2階^{かい}作^{さく}業^{ぎょう}室^{しつ}の奈良^{なら}交通^{こうつう}のバスカレンダ^るーをみ^みるのが好き^すで、色^{いろ}んなところ^{ところ}にい^いき
 たいなと思^{おも}います。コ^こロ^ろナが収^{おさ}まったらヘルパーさんと大阪^{おおさか}空^{くう}港^{こう}に行^いって飛^ひ行^{こう}機^きが見^み
 たいです。あと、新^{しん}幹^{かん}線^{せん}に乗^のって出^でかけたいです。



- ① 村上^{むらかみ}智子^{ともこ}、50歳^{さい}です。
 ② お母^{かあ}さんとお父^{とう}さんと3人^{にん}で暮^くらしています。
 おと^{おと}ととき^{とき}ど^どき^き帰^{かえ}って来^きて、一^{いっ}緒^{しょ}に話^はし^したりご飯^{はん}を食^たべます。
 嬉^{うれ}しいけど洗^{あら}い物^{もの}が増^ふえて大^{たい}変^{へん}です。
 ③ ファッショ^{せん}ンの専^{せん}門^{もん}学^{がっこう}校^{こう}を卒^{そつ}業^{ぎょう}して3回^{かい}、就^{しゅう}職^{しよく}しまし^した。そのう^{かい}ちの1回^{いっ}は以^い前^{ぜん}、
 ちいろ^{かい}ば会^{かい}のグ^くル^むー^{かい}プホ^{いっ}ームで暮^{はたら}らしていた向^むさん^{さん}と一^{いっ}緒^{しょ}に働^{はたら}いていました。
 毎^{まい}日^に長^{なが}い時^じ間^{かん}働^{はたら}くのはしんどかったです。
 ④ 買^かい物^{もの}が好^すきです。お金^{かね}をた^ためて服^{ふく}や化^け粧^{しょう}道^{どう}具^ぐを入^いれるポー^かチを^か買^かいたい^すです。
 それと、毎^{まい}年^{とし}年^{ねん}賀^が状^{じょう}を送^{おく}って^るけど、ず^あっと会^あえてい^{ない}な^い友^{とも}達^{だち}に会^あいた^いたい^すです。

ほうじんしよくいんけんしゅうほうこく
法人職員研修報告

～「性の多様性を知って考える」Ⅰ



今年度から「性の多様性を知って考える」と題して
性と生を考える会奈良代表 中田ひとみさんを講師に
2年間(4回)の連続講座で研修を実施することになり
ました。

ちいろば園職員 野呂千代子

今年度から「性の多様性」について学ぶ機会を頂き私自身、周りに世間一般ではレズビアンやゲイと呼ばれる友達も多く偏見はないのですが知らない事が多すぎてびっくりしました。どの言葉で自分を表現するのかの言葉の説明では今まで聞いたこともなかった言葉も沢山ありました。

講師の中田ひとみさんが『普段、当たり前と思っていることが当たり前ではない事を知ることが大事』とおっしゃっていて本当にその通りだと思いました。当たり前ではないと気づくためにも色々なことに関心を持ち、知ろうとする気持ちを持つことが大事だと思いました。なかなか自分の興味の無い事には関心をもたないと思います。でも自分一人で生きているわけではないので今、自分が生きている世界でどんなことが起こっているのかなどに興味を持つことも大事だなと思いました。『傷つけるつもりはなくても自分の価値観で話をすることで傷ついてしまう』ということもおっしゃっていてその言葉を聞いてドキッとしたと同時にすごく難しく感じました。もし、自分の価値観で話をしても相手にもそれを強要することなく色々な考えがあるということを頭において価値観を押し付けるのは相手を否定することと一緒になので気をつけようと思います。そのうえで、私が今からできることを考えまず、『認める』ことから始めてみようと思いました。育ってきた環境が違うし人それぞれ色々な感情や価値観があると思います。時には、そこを理解できない部分も出てくると思います。そんな時、そういう考え方もあるのだと相手を認めることのできる人でありたいと思います。



グループホーム職員 小出亜希子

性と生を考える会の現役看護師中田ひとみさんを講師に、内容の濃いお話を聞かせていただきました。性とは多様性があり、男性と女性の2通りの枠だけで決めるのはナンセンスだと言うこと、まだまだ全ての人に理解されていないので実際、生きづらさや苦しんでいる人たちがいるという事実を知りました。

LGBTQ あるいはセクシャルマイノリティであること自体は異常なことでも悪いことでもありません。心の性、身体の性、好きの性、性別役割、性別表現、法的な性これらをどう認識し、どう考えるかと言うことは誰もが自分らしく生きるために人として当然の権利なのです。利用者みなさんと快適な環境づくりを築いていくために今後LGBTQ あるいはセクシャルマイノリティについても知ること理解することはとても重要なことだと思いました。

☆^{こうえんかいひ}後援会費・^{ねんかんこうどくりよう}ちいろばだより年間購読料（^{ねん がつ にち}2022年6月1日～^{ねん がつ にち}2022年7月31日）

^{きょうりょく}ご協力ありがとうございました。

篠原範子、甲斐眞知子、井上眞理子、太田章一、兼平淑子、中野みち、本田佳子、田中廣子、岡山定男、竹田和子、長谷川多鶴子、窪田義廣、経堂洋子、堀内俊文、建石より子、石川徹、西村好夫、中川朋子、川端邦芳、山崎喜美子、東応成、中島佳代子、西村恭子、備後直子、牧村スマ子、山田薫・歩、黒川正通、平山恵理、坂本友希、小倉奈々、高見良平、辰巳普宣、藤本千絵、不二門雅代、楠本杉子、大野美子、村本建設株式会社、福音幼稚園、大阪聖和教会、後藤芳子、高倉常子

^{いじょう}以上 ^{けいしょう}敬称は略 ^{りやく}させていただきます

=^{しんがた}新型コロナウイルス^{しゅうだんかんせん}集団感染^{ほうこく}のご報告=

ちいろば会では、去る 9 月 7 日（火）、職員 1 名の新型コロナウイルスへの感染が確認されました。9 月 8 日（水）当該職員との接触のあった職員 2 名、間接的に接触があった利用者 2 名の体調不良が確認されたことから 9 日（金）より生活介護事業を休止して、利用者、職員全員の抗原検査を実施し、13 日の時点で利用者 7 名、職員 6 名まで感染が拡大してしまいました。

今回の感染では、グループホーム利用者の感染者が多かったことから、感染者と非感染者を分けることなど対応に苦慮しましたが、その後の感染拡大がないことから 15 日（金）から事業再開することができました。しかし、この間、10 日（土）に開催を予定していた「ちいろばまつり」の中止、15 日からの一泊旅行の延期等、利用者みなさん、ご家族みなさま、給食、通所バスの委託事業者、三郷町からの受託事業、行事にご協力いただく予定のみなさま、大変多くの方々にご心配、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます、とともに、引き続き、感染予防、感染拡大予防に努めていきます。

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年 6 回 頒価 50 円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5－6－14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町 2－2 東興ビル 4 F

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行